

## 令和1年度飯山市美術館運営協議会（第2回）

日時 令和2年2月27日（木）15:30～

場所 飯山市公民館101会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

- ・廣靖彦美術館運営協議会長
- ・長瀬哲教育長

### 3 協議事項

- (1) 令和1年度事業について（報告）
- (2) 令和2年度事業計画（案）について
- (3) 令和3年度以降の企画展等について
- (4) その他

### 4 閉 会

○飯山市美術館運営協議会規則

平成9年3月21日教育委員会規則第3号

改正

平成18年2月20日教委規則第1号

平成20年3月24日教委規則第2号

平成27年3月31日教委規則第4号

飯山市美術館運営協議会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、飯山市伝統産業会館条例（昭和57年飯山市条例第22号）第19条に定める飯山市美術館運営協議会（以下「協議会」という。）の委員の定数、任期その他必要な事項を定めるものとする。

(定数)

第2条 協議会の委員の定数は、12人以内とする。

(任命)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識者から教育委員会が委嘱し、又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 協議会に会長を置き、委員が互選する。

2 会長が会務を総理する。

3 会長が事故あるときは、あらかじめ会長が指名した委員がその職務を代理する。

(協議会)

第6条 協議会は、美術館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対し意見を述べることができる。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成18年2月20日教委規則第1号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月24日教委規則第2号）

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第1条の改正規定は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月31日教委規則第4号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

令和1年度飯山市美術館運営協議会委員 名簿

美術館運営協議会委員（敬称略）

|   | 氏 名 等         | 備考（推薦団体等）   |
|---|---------------|-------------|
| 1 | 廣 靖彦（会長）      | 有識者         |
| 2 | 丸山 公人（会長職務代理） | 飯山市芸術文化協会   |
| 3 | 吉越 隆師         | 飯山市芸術文化協会   |
| 4 | 千坂 経悦         | 飯山市高校美術科担当者 |
| 5 | 上海 一徳         | 飯山仏壇事業協同組合  |
| 6 | 高山 顕光         | 校長会         |
| 7 | 森崎 鉄兵         | 社会教育委員      |
| 8 | 阿部 拓也         | 内山紙協同組合     |

教育委員会関係者

|   |               |       |
|---|---------------|-------|
| 1 | 教育長           | 長瀬 哲  |
| 2 | 文化振興部長        | 常田 新司 |
| 3 | 文化交流課長（兼）美術館長 | 佐藤 千明 |
| 4 | 美術館係長         | 井端 伸介 |
| 5 | 臨時職員          | 木村 友子 |
| 6 | 臨時職員          | 小林 隆子 |

令和1度事業報告

|        | 事業名                              | 内容・効果等   | 期間・会場等   | 入館者数等   |
|--------|----------------------------------|--|--|---|
| 常設展示   | 常設展示(前期)                         | 飯山市出身あるいはゆかりの芸術家で、これまで企画展を開催した画家の作品を中心に展示。美術館収蔵品60～70点を展示した。   | H31.4.1～<br>R1.8.25                                | 入場者数:1,834人                                     |
|        | 常設展示(展示替え調整)                     |  | R1.11.14～11.19                                     | 入場者数:174人                                       |
|        | 常設展示(後期)<br>※資料P1参照              |  | R1.12.12～<br>R2.3.31(予定)                           | 入場者数:555人                                       |
| ギャラリー展 | こぶしの会 30周年記念展<br>※資料P1参照         | 公民館で活動している社会教育団体こぶしの会のグループ展。会員7名が制作した風景や静物を描いた日本画28点を展示。<br>市民芸術祭と同様に出品者の関係者が来館されることから、美術館を身近に感じていただく機会として効果があったと思われる。   | H31.4.17～<br>R1.5.6<br>開館日数:18日<br>会場:ロビー及び2階ギャラリー | 入場者数:374人                                       |
|        | 第1回 飯山仏壇体験フェスタ<br>※資料P1参照        | 飯山市伝統後工芸士4人による「飯山仏壇の匠の技に挑戦してみよう!」を開催。(体験内容:蒔絵、彫金、彫刻)   | H31.7.6～7.6<br>開館日数:2日<br>会場:ロビー                   | 二日間の入場者数:130人<br>体験参加者数:24名                     |
|        | 小橋城 鍋倉の森 展<br>※資料P2参照            | スキー写真家・小橋城氏(東京出身千葉県在住)が鍋倉山に5年間50回余り通い続けて撮影した写真32点を展示。<br>期間中、小橋氏等によるギャラリートークを2回開催。2/2は32名、2/11は28名が参加した。   | R2.1.8～3.4<br>開館日数:50日<br>会場:ロビー及び2階ギャラリー          | 入場者数:485人<br>2/26現在                             |
| 企画展    | 木原正徳展 ひとかたち 《野に還る》<br>※資料P3参照    | 太田大深出身の画家で東北芸術工科大学副学長・教授の木原正徳氏の個展を開催。<br>最近10年間の二紀展出品作品を中心に、人や動植物の形態を鮮やかな色彩で描き出した大作など約60点を展示し、木原芸術を堪能できる機会とした。<br>最終日(11/4)、作家によるギャラリートークを開催し、約20名が参加した。また、期間中、学びのエリア館秋まつり(10/5・6)の催しとして、木原正徳展の作品を見て答える「クイズ・答えは作品の中」を実施。 | R1.9.1～11.4<br>開館日数:54日<br>展示室・ロビー・2階ギャラリーの全室      | 入場者数:2,242人<br>※学びのエリア館秋まつり2日間の無料入館者数(約816人)を含む |
|        | 長野県信濃美術館移動展「旅行者たちの記録」<br>※資料P4参照 | 信濃美術館が県内の施設を会場として開催している移動展を開催。草間彌生や池田満寿夫の作品など、世界的に知名度のある作家の作品等約40点が展示された。飯山市名誉市民の長谷川青澄の信濃美術館所蔵の代表作も併せて鑑賞できる機会となった。   | R1.11.23～12.8<br>開館日数:14日<br>展示室                   | 入場者数:254人                                       |

令和1度事業報告

|        | 事業名                                      | 内容・効果等   | 期間・会場等                  | 入館者数等            |
|--------|--|--|-------------------------|------------------|
| 美術教室等  | ワークショップ<br>うちわ作り<br>「押して！貼って！うちわ」        | 郷土の和紙や土を使った造形教室を開催。<br>身近な石や野菜に土から作った絵具を塗り、和紙にスタンプする技法で絵画制作を行った。<br>(公民館夏休み体験教室) | R1.7.31<br>会場:公民館103    | 参加者数:14名         |
|        | ワークショップ<br>ランプシェード作り<br>「マイランプシェードを作ろう！」 | 郷土の伝統工芸である内山紙を使ったオリジナルのランプシェードを作る。<br>(公民館春休み体験教室)                               | 実施予定日:3/26<br>会場:公民館103 | 参加者数:15名(申し込み人数) |
| 寄贈申出受入 | 河野文夫作品37点                                | 河野文夫のご遺族(河野美恵子氏)から河野文夫の油彩画等37点を寄贈していただいた。  | 寄付採納審査委員会<br>R1.5.13承認  |                  |
|        | 佐藤武造作品等16点                               | 佐藤武造のご遺族(佐藤昭氏)から佐藤武造の漆絵や水彩画、スケッチブックなど16点を寄贈していただいた。                              | 寄付採納審査委員会<br>R1.6.27承認  |                  |
|        | 仏像2点                                     | 松田峯琳氏(松本市在住)から同氏が制作した木彫による千手観音立像と聖観音立像を寄贈していただいた。                                | 寄付採納審査委員会<br>R1.12.3承認  | 運搬準備中            |

## 令和2年度事業計画（案）

### 1 常設展示

内容： 飯山市出身あるいはゆかりの美術家及び企画展を開催した美術家の作品を中心に常設展示を行う。美術館収蔵品及び借用作品を合わせて60～70点を展示する。

期間：①令和2年4月1日（水）～令和2年9月13日（日）※5ヶ月間と13日  
※4/18（土）・19（日）は第40回飯山市民芸術祭展示部門の会場として使用。

②令和2年11月10日（火）～令和3年3月31日（水）※約4ヶ月半

### 2 企画展開催事業

#### ○正受老人三百年遠諱を記念した特別展

名称：（仮称）正受老人300年遠諱記念特別展

期間： 令和2年9月19日（土）～令和2年11月3日（火・祝）

内容： 正受老人及び正受庵にゆかりのある遺墨などを借用展示し、白隠禅師を正しい悟りに導いた正受老人を内外に紹介する。展示資料は主に正受庵所蔵の寺宝を借用する。

備考：・正受庵の小菅住職の依頼により昨年、11/13～15に花園大学歴史博物館及び禅文化研究所が正受庵の寺宝調査（前半）を実施した。また、今年、4/15～17にも寺宝調査（後半）が予定されている。

美術館としては、調査を行った志水研究員らから指導助言を受け、特別展の展示作品を決定したいと考えている。

### 3 ギャラリー展等

方針：市出身やゆかりの有無にこだわらず、市外の作家も積極的に紹介し、施設の有効活用・活性化を図る。

#### （1）『（仮称）河野文夫寄贈作品展』

期間： 7月～8月 ※検討中

会場： 2階ギャラリー及びロビー

内容： 平成15年に市美術館において企画展を開催した河野文夫（1908～1991、佐賀県出身）は戦後の飯山の美術振興に大きく貢献した教育者である。

ご遺族（河野美恵子氏）から令和1年5月に河野文夫作品37点（油彩画）の寄贈を受けたことから寄贈作品を披露する機会としたい。

備考： 寄贈していただいた作品を展示するためには、額装から作品本体を取り出し、額装の清掃や補修などが必要であり、計画的に準備を行う必要がある。

(2) 『(仮称) 飯山仏壇ゆかりの仏師たち』

内容： 飯山仏壇にゆかりのある仏師をテーマとした展示。

名称： (仮称) 飯山仏壇ゆかりの仏師たち

期間： 令和2年9月19日(土)～令和2年11月3日(火・祝)

会場： 2階ギャラリー

内容： 滝澤天友(1871～1909)や寺瀬黙山(1893～1993)など、飯山仏壇に関わった仏師・彫刻家の作品を紹介する。

滝澤天友は高村光雲(1852～1934)に善光寺の仁王像制作の助力を依頼されながら夭折した。また、寺瀬黙山は佐久間象山、荻原礫山とともに信州三山の一人に数えられた彫刻家である。

備考： 正受老人三百年遠諱記念特別展と同時開催する。

(3) その他(検討中)

①飯山仏壇体験フェスタ「飯山仏壇の匠の技に挑戦してみよう！」

昨年(7/6)、美術館ロビーにおいて開催していただいた。伝統産業会館で行うイベントとしてふさわしい内容であることから、今年度も同様に開催できるのであれば、美術館のギャラリー展と同様に協力したいと考えている。

②「越後のはさ木と瞽女展」の開催 ※添付資料参照

国見修二氏(上越詩を読む会、妙高市)と渡部等氏(洋画家、福島県南会津郡)が昨年7月に市美術館に来館され、「越後のはさ木と瞽女展」を開催させてほしいとの希望が出されている。

美術館運営協議会の委員の方々のご意見を訊いたうえで返答すると伝えることから、本協議会においてご意見をいただきたい。

(開催する場合)

- ・飯山市教育委員会と共催という位置づけになる。
- ・開催経費は市美術館では負担しない。
- ・ロビーと2階ギャラリーまたは展示室を使用する。
- ・令和2年度に限らずに会期を検討する可能性がある。

③登録社会教育認定団体による作品発表展等

登録社会教育団体から利用希望があれば、随時、検討を行う。

4 ワークショップ・美術教室等

方針： 特徴ある美術館づくりを目指して、郷土の伝統工芸である“和紙”と地元の土から作った絵の具を使った絵画制作等のワークショップを継続して取り組む。また、美術家等に協力を仰ぎ、美術を身近に感じ楽しむためのギャラリートークやワークショップを実施する。

○夏休み・春休み体験教室の美術・図工の講座を担当実施

市公民館主催の小中学生を対象とした夏休み・春休み体験教室において、美術・図工関連の企画立案と運営に関わる予定。

実施内容については、今後、検討していく。

5 五郷研修館の活用・県外在住作家との連携

方針： 県外在住の芸術家と連携し、美術館活動の活性化に繋げる。

現状： 県外在住の芸術家4名が不定期に五郷研修館を使用している。活発に制作活動が行われている状況ではないが、ギャラリー展を開催する可能性があることから当面は現状で継続することとしたい。

研修館を使用している美術家：

○原田卓三（大阪府在住、東京芸術大学大学院修了、独立行政法人造幣局勤務）

○瀬島 匠（東京都在住、武蔵野美術大学卒、日本大学芸術学部教授）

○内田 寛（愛知県在住、名古屋芸術大学卒）

○星 晃（埼玉県生まれ 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒）

6 管理運営関係

(1) 開館スケジュールについて

※令和2年度開館予定を参照

◎臨時休館する日

|                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 4/17(金)・4/21(火) | 春の展示替え            |
| 9/15(火)～9/18(水) | 三百年遠諱特別展開催に伴う展示替え |
| 11/4(水)～11/8(日) | 三百年遠諱特別展終了に伴う展示替え |



令和3年度以降の企画展等について

|                 |                           |  |
|-----------------|---------------------------|--|
| 令和3年度<br>(2021) | (内定)<br>和紙作家・森田千晶展        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯山市で開催された「和紙の仕事大賞コンペティション」において大賞(H18)と優秀賞(H17)を受賞した和紙作家・森田千晶氏の作品展を開催予定。本人承諾済み。</li> <li>・昨年(R1)8月に森田氏本人が会場を下見を行うなど企画展の準備を進めている。</li> </ul> |
| 令和4年度<br>(2022) | (候補)<br>佐藤武造展没後50年<br>記念展 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成12年に企画展を開催した瑞穂出身の画家・佐藤武造(1891~1972)は漆絵を手掛けた画家として地元を中心に知られている。</li> <li>・市民からも開催を希望する要望が寄せられていることから、是非とも開催を検討する必要がある。</li> </ul>          |
| 令和5年度<br>(2023) | (候補)<br>岩上隆静没後10年記<br>念展  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋津地区出身の画家・岩上隆静(1930~2013)は北信濃の風景を精力的に描いた。</li> <li>・平成14年に企画展を開催。</li> </ul>   |

|           |              |
|-----------|--------------|
| 令和6(2024) | 長谷川青澄青澄没後20年 |
| 令和7(2025) |              |
| 令和8(2026) | 小林起一没後20年    |
| 令和9(2027) |              |